

# 立入が丘小学校だより



## 一月往ぬる 二月逃げる 三月去る…

新しい年を迎えたこの間3学期がスタートしたと思っていたら、もう、2月に入りました。「一月往ぬる 二月逃げる 三月去る」とは本当によく言ったもので、年度末までの月日の経つ早さを実感します。古くから日本人の生活実感を捉えてきたこの言葉には、時間を大切にしようという戒めが込められているそうです。また、単に時間の過ぎるのが早いと嘆くだけでなく、「この時期は油断をしているとすぐに終わってしまうから、計画的に過ごしなさい」という教訓としても用いられているとのことで、肝に銘じなければならなかったと思います。

さて、本校では、校内研究として学級会（話し合い活動）に取り組んできました。先月は、今年度の最終回として1年生が授業公開しました。給食の牛乳パックをきれいに片付けるにはどうしたらよいかを議題に話し合いました。これまで1年間の話し合い活動の経験の蓄積と、今回の議題に関しては、この日までに様々な案を全員が試したうえで話し合いに臨んでいたので、1年生でありながら多くの子が理由を添えてしっかりとした意見を述べることができました。発表できなかつた子も、自分のプリントにはぎっしりと意見を書き溜められていました。学校生活を自分たちの手でより良くしていきたいという願いは、学校自治のベースとなります。子どもたち同士が思いを伝え合いながら、学校生活を築いていく1年間の成果が見られた学級会だったと思います。今後も、自分の思いを伝えられる、人の思いを聞くことのできる子どもたちの育成をめざした教育を大切にしていきたいと思います。



### 『成瀬シリーズ完結本』

学校図書館の活性化に向けて様々な取組をしていますが、その中の一つとしてコーナーを作っていた成瀬シリーズの3作目「成瀬は都を駆け抜ける」がシリーズ完結本として昨年12月に発売されました。学校の蔵書として購入しましたが、ある保護者の方からも「子どもたちのために」と寄贈していただきました。貸出冊数と来館者増に役立てたいと思います。ありがとうございました。

先日の新聞では、書籍の販売額が50年ぶりに1兆円を割ったと報道されました。週刊誌の減少が一番大きいそうですが、紙と電子を合わせた出版市場も1.6%減となっています。小説『国宝』の販売が記録的ヒットをしてこの数字に、スマホの台頭以降、じっくりと本に向かう時間がどんどん減っているのはとの懸念を抱いてしまいます。

先日、私が小学生の頃から愛聴している朝のラジオ番組に、「成瀬シリーズ」の作者、宮島未奈さんが出演されました。聴取者からの投稿で「活字アレルギーで読書が苦痛でしかなかった私が「成瀬シリーズ」で読書が楽しいと思えるようになりました、他の本も手に取ることができるようになった」との報告がありました。宮島さんは、喋りにも音楽にもリズムがあるよう、文章にも私なりのリズムがあること。そして「成瀬シリーズ」では、主人公が他者視点から描かれているところに特徴があることを話されました。因みに「成瀬は天下を取りにいく」は、中学校の国語の入試問題にも採用されていたそうです。

人気の理由には他にも、フィクションでありながら滋賀であったり京都であったりと、実在する地名や場所を数多く登場し、現実と物語のはざまをイメージしてしまう面白さがあるようです。今でも、膳所界隈を本を片手に聖地巡礼に訪れる方を見かけることがあると話していました。

年度末を控え、これまでの「成瀬シリーズ」を読んだ子どもたちにはさらなるこのシリーズの楽しさを、まだこの本を手に取っていない子どもたちには、ぜひ、この本の面白さに触れてほしいと思います。

まだ非公開の情報らしいのですが、この「成瀬は天下を取りにいく」と「成瀬は信じた道をいく」が7月に舞台化されるそうです。場所は、東京の他、京都は南座・滋賀は大津市民会館だそうです。どんなものか見に行きたいなあと思っています。

「成瀬シリーズ」は、今回の3作目で完結と作者は断言しています。現在進行中の新作としてギャルの姿をしたお坊さんを主人公とする小説を執筆中とのことです。寺院関係者にヒアリングし、設定の可能性を検証しながら年内刊行を目指して書き進めているそうです。新たな楽しみができました。